

# 平成22年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 1012

所管部局	農林商工部	所管課	農林整備課	担当者名	谷 裕之
事業名	森林病虫害等駆除事業			事業分類	ソフト事業
細事業名	森林病虫害等駆除事業			政策体系	211
会計	一般会計	科目	6.農林 - 2.林業 - 2.林業		

## 1. 事業の概要

松くい虫防除事業の実施。  
被害木伐倒処理・伐倒駆除・樹幹注入  
カシノナガキクイムシ防除事業（広葉樹の枯損被害防止）の実施。

## 2. 事業の目的と必要性

### ①施策で目指す目標との関連付け

特用林産物生産の維持、自然環境と森林資源の保全のために実施をするものである。

### ②事業を実施する必要性

天然林の荒廃や消失により絶滅危惧種が増加し、生物多様性の低下が生じてきており、あわせて松くい虫被害による特用林産物生産の維持が危ぶまれている状況があり、事業の継続は必要不可欠である。

## 3. 事業費の推移

	単位	平18決算	平19決算	平20決算	平21決算	平22予算	平23計画	平24計画
決算額または計画額	千円	17,535	25,587	28,266	54,073	103,536	19,104	19,104
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	10,981	16,740	18,647	47,391	103,534	12,415
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	6,554	8,847	9,619	6,682	2	6,689
職員等の従事人員	人/年	—	—	0.15	0.20			
人件費	千円	—	—	748	1,246			
事業費総額	千円	—	—	29,014	55,319			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。  
※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

## 4. 主な事業費の内訳

松くい虫被害木伐倒処理、樹幹注入、伐倒駆除の実施 19,097千円（委託料）  
温室効果ガス吸収源対策森林整備事業 樹幹注入、被害木伐倒処理の実施 34,975千円（委託料）

## 5. 事業結果の概要

松くい虫被害木伐倒処理、樹幹注入、伐倒駆除の実施 19,097千円（委託料）  
温室効果ガス吸収源対策森林整備事業 樹幹注入、被害木伐倒処理の実施 34,975千円（委託料）

## 6. 活動の詳細

活 動 内 容	活動日又は時期	活 動 結 果 等
(1) 伐倒処理等		
特用林産物生産の維持、自然環境と森林資源の保全のために被害木伐倒処理等を行う。・被害木伐倒処理 1,400m <sup>3</sup> 5,986本 樹幹注入薬剤 3,200本 9.2ha 1,569本 伐倒駆除 100m <sup>3</sup> 550本 温室効果ガス吸収源森林整備事業 樹幹注入薬剤2,500本 747本 被害木伐倒処理 1,960m <sup>3</sup> 松 5,656本	21.5～22.3	松枯れ被害の蔓延を防止し、丹波マツタケの収穫量の減少を食い止め、あわせて景観保全を保ち、風倒木による人的被害防止等が図れた。

## 7. 所属長評価 [平成20年度から改善した点、今後の展開など]

--

### 【参考】過年度の評価

#### ■平成21年度の所属長評価

- |   |
|---|
| <p>①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点<br/>特用林産物生産の維持。</p> <p>②当該事業のアピール事項<br/>自然環境と森林資源保全の必要性。</p> <p>③反省点、今後の展開・方向性等<br/>松枯れ被害の蔓延を防止し、丹波マツタケの収穫量確保、あわせて景観保全を図るためには引き続き事業実施が必要である。</p> |
|---|